

2023年11月14日

未承認新規医薬品・医療機器評価委員会で承認された治療法

当院の未承認新規医薬品・医療機器評価委員会にて、下記の治療法が承認されました。対象者となられる方から同意をいただくことに代えて、病院ホームページにて情報を公開することにより投薬を実施しております。なお、本件について同意できない場合、診療において不利益を被ることはありません。この内容に関して拒否される場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

記

実施内容	自己拡張型ステントを用いた分枝血流の温存
実施責任者	三重大学医学部附属病院 病院長 池田 智明
対象者	血管の形態が通常のステントグラフト内挿術に適していない患者様
承認日	2023年11月14日
対象期間	2023年11月14日から永続
概要	<p>【目的・意義・想定される不利益】</p> <p>ステントグラフト内挿術では既製の企業製デバイスを使用するため、血管の形態が通常のステントグラフト内挿術に適していない方もおられます。当院では血管の形態がステントグラフト内挿術に適していない方で、年齢等により外科手術を受けることが困難な方を対象に自己拡張型ステントを用いた分枝血流の温存を行っております。</p> <p>通常のステントグラフト内挿術は主要分枝(左鎖骨下動脈や腎動脈など)の分岐部の末梢からデバイスを留置しますが、主要分枝から病変までの距離(シーリング長)が短い場合(< 2cm)には、主要分枝を意図的に閉鎖する形でステントグラフトを留置して、シーリング長を延長する必要があります。その際に、閉塞した主要分枝に自己拡張型ステントを留置して、主要分枝の血流を確保します。この手法は以前から国内外で広く行われており、当科も50名以上の患者様に対するステントグラフト内挿術でこの手法を使用しております。</p> <p>想定される合併症としては、手技時の血管損傷や遠位塞栓、挿入したステントの狭窄/閉塞による脳梗塞や臓器傷害があります。</p>
お問い合わせ先	三重大学医学部附属病院 総務課 総務係 代表 059-232-1111 (内線 6293)

以上